

日本海沿岸の「地震・津波被害想定」の概要（石狩市）

①被害想定目的

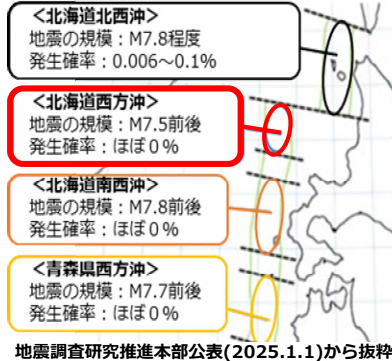
○ 最大クラスの地震・津波が発生した際に、「いつ・どこで・どれくらいの被害が出る可能性があるかを想定しておくことで、命を守るための行動や被害を減らすための対策を考えるために活用するものです。

②日本海沿岸の地震の特徴

○ 陸地に近いところに断層があるため、揺れが大きく、地震発生から津波到達までの時間が短いという特徴があります。

③地震の発生確率

○ 国は、30年以内の北海道沖での地震発生確率を0~0.1%と公表しています。
(本想定は15断層モデルの確率ではありません。)



④地震の断層モデルなど

○断層モデルの設定

2017年（平成29年）に「北海道日本海沿岸の津波浸水想定」で設定した15断層モデル

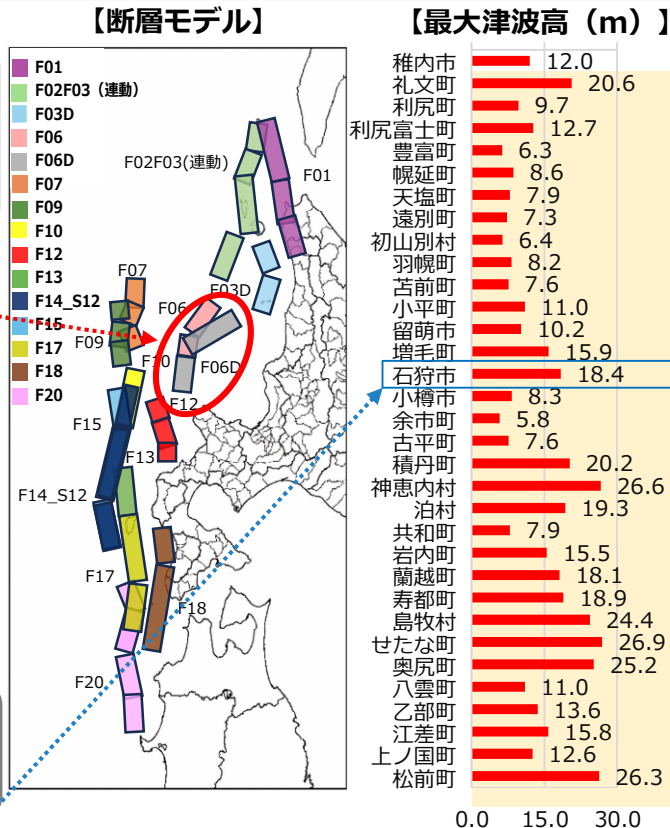
石狩市が最も影響を受ける断層「F06D」

○想定する津波

2017年（平成29年）に「北海道日本海沿岸の津波浸水想定」等の結果を用いています。
※津波浸水想定に変更はありません

石狩市の最大津波高「18.4m」

※最も波が高い地点の数字であり、居住区に影響を及ぼすものとは限らない。



⑤北海道沿岸自治体の被害想定結果（被害が最大となるもの）

○建物被害

・全壊 約16,000棟（F01・冬）

○人的被害

・死者 : 約 7,500人（F17/冬・深夜、早期避難率が低い場合）
・負傷者 : 約 5,300人（F01/冬・深夜、早期避難率が低い場合）
・要救助者 : 約 5,600人（F01/冬・夕方）
・低体温症要対処者 : 約 4,100人（F02F03連動/冬・夕方）
・避難者 : 約 59,000人（F06D/発生直後）

○その他想定される被害

・塀の転倒、災害関連死、避難者・避難所生活、帰宅困難者、鉄道、港湾、空港、上下水道、電力、通信、ガス、災害廃棄物、道路・交通、集客施設、孤立集落、農業・酪農・漁業被害など能登半島地震も参考に30項目273事例を記載しています。

⑥石狩市の被害想定結果（被害が最大となるもの）

○建物被害

・全壊 約1,400棟（F06D・冬）

○人的被害

・死者 : 約 420人（F06D/冬・深夜、早期避難率が低い場合）
・負傷者 : 約 200人（F06D/冬・深夜、早期避難率が低い場合）
・要救助者 : 約 20人（F06D/冬・深夜、早期避難率が低い場合）
・低体温症要対処者 : 約 280人（F06D/冬・夕方）
・避難者 : 約14,000人（F06D/発生直後）

※被害想定は、発生する断層や時期・時間帯、早期避難率などによって大きく異なります。

⑦算定方法等

○ 被害想定は、過去の災害の避難状況などにに基づき算定した推計となります。
○ それぞれの地域で整備した避難階段や避難路などの全ての防災対策を被害想定に反映できているわけではありません。

⑧被害を軽減するため

○ 地震発生直後に避難を開始することや避難する住民の割合が増えることにより、津波からの人的被害の軽減が可能となります。